

早稲田大学 法学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分
特徴・その他	商学部・政治経済学部に続いて出題される可能性があった論述問題は出されなかったが、今後は注意が必要だろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代～中世の水稲耕作の歴史	8・9・10は難問。10「大唐米」は鎌倉時代に輸入されたが、普及したのは室町時代と考えると「え」は誤文になってしまう。しかし「あ・い・お」は近世のできごとなので、完全な誤文である。この難問はすべて、1～7の基本問題を正解すれば十分合格できる。	やや難
II	江戸時代後期の対外関係(史料)	2だけ悩まされるが、それでも素直に考えれば正解できる。それ以外は大変易しいうえに、前日に行われた政治経済学部の問題とも似通っていた。政経学部入試当日の解答速報会が少しは役に立っただろうか。	やや易
III	近代の新聞	この大問も政治経済学部の問題に似ていた。5(国民新聞)のみやや難しいが、2002年東京女子大などでも同じ問題が出題されており、早稲田予備校の模試および授業などでもあついていた。他の問題は基本レベル問題ばかりで、さらに10(我等)は早大入試定番の問題であった。	やや易

IV	戦間・戦後の経済	1・5・6・8は難問。時事問題といえるが、だからといって正解できた受験生は少ないだろう。残りの6問をきちんと正解しよう。	難
----	----------	--	---

〔総合コメント〕

6割近い基本問題と、どうしても解けない2割弱の問題の難易度格差が大きい。残り2割の「意外と出る問題」を正解したい。「新猿楽記」「我等」「産業報国会」「臨時資金調整法」などがそれにあたる。これらは難問と言われがちだが、実際は各大学で結構出題されているため、難問と決めつけて覚えたいのは大変もったいない。細かすぎる用語を覚える必要はまったくないが、入試の出題状況を正確に把握して学習することは「受験の基本＝正攻法」である。